

# 情報公開文書

研究の名称	内頸動脈不安定プラークの発生機序の解明
整理番号	臨30-58
研究機関の名称	国立大学法人 富山大学附属病院
研究責任者	大学院医学薬学研究部 脳神経外科学 助教 柏崎 大奈
研究の概要	<p><b>【研究対象者】</b> 富山大学附属病院脳神経外科にて、2012年1月1日以降にMRIや造影CTA、頸部頸動脈エコー、血管造影で頸部内頸動脈狭窄症と診断された患者さん。</p> <p><b>【研究の目的・意義】</b> 内頸動脈狭窄症は脳梗塞の原因となる疾患です。近年、食生活の欧米化に伴い罹患率が年々増加しています。最近の研究では、すべての内頸動脈狭窄症が脳梗塞を発症するのではなく、特定の内頸動脈狭窄症が脳梗塞の発症の危険性が高いことが判ってきました。内頸動脈狭窄症はプラークと呼ばれる動脈硬化性の病変ができることによって発生します。そのプラークのうち不安定プラークと呼ばれるプラークを含んだ内頸動脈狭窄症が脳梗塞の危険性が高いと言われています。本研究では、不安定プラークがどのような機序で形成されていくかを解明することを目的にした研究です。</p> <p><b>【研究の方法】</b> 本研究では、研究対象の患者さんの患者情報（診療録、MRI、超音波検査、血管撮影検査、CT、脳血流検査、採血結果、脳波）と手術で摘出したプラーク検体（2012年1月1日以降に内頸動脈内膜剥離術を受けた患者さんのみ）をもちいて研究を行います。患者情報は情報を統計解析するために用いて、プラーク検体は特殊な免疫染色をおこない、不安定プラークの病態解明のために用います。</p> <p><b>【研究期間】</b> 2018年8月23日から2024年12月31日まで</p> <p><b>【研究結果の公表の方法】</b> 国内外の脳卒中関連の学会にて発表します。 また、脳卒中関連の英文雑誌へ発表を行います。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法（他機関への提供の有無）	研究は、当施設において内頸動脈内膜剥離術を実施し摘出したプラーク検体を用います。検体は、ホルマリン固定の後に免疫染色をおこないます。 本研究で得られた情報や試料は他機関への提供は行いません。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	研究に用いる試料および情報は当施設のみで利用します。他機関や国外と共有することはありません。
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	富山大学大学院医学薬学研究部 脳神経外科学 助教 柏崎 大奈
研究対象者、親族等関係者からの相談等への	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する

対応窓口	相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 076-434-7348 FAX 076-434-5034 E-mail dkashiwa@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 脳神経外科 助教 柏崎大奈
------	--